

1. 授業の概要(ねらい)

制度会計における(財務諸表作成のための)原価計算の基礎を学びます。ビジネスや社会においてコストとは何か、実際にどのように計算されるのか等、原価計算の基礎知識を身に付けてほしいと思っています。

管理会計論Ⅱでは、総合原価計算、標準原価計算を習得します。さらに、直接原価計算、意思決定のための原価計算についても学びます。

2. 授業の到達目標

- ①総合原価計算を習得する
- ②標準原価計算を習得する
- ③直接原価計算、意思決定のための原価計算を理解する

3. 成績評価の方法および基準

授業中に行う演習問題やミニテスト(自らの理解度を確かめるための小テスト)やLMS上の課題の成績を含めた授業態度30%、定期試験の成績70%です。

単位の取得には、原則3分の2以上の出席が必要です。

4. 教科書・参考文献

教科書

渋谷武夫 『スタディガイド原価計算』 中央経済社

参考文献

日商簿記検定2級工業簿記の受験参考書

5. 準備学修の内容

原価計算は内容が継続しており前回の授業の内容を理解していないと次の授業の内容を理解するのは困難です。したがって復習は必ずしてください。

計算問題の解答を目で追っているだけだと原価計算の理解は進みません。必ず、自らが考えて実際に計算することを繰り返す必要があります。

やむを得ず欠席の場合はLMSにレジュメや配布資料を掲載していますので、それで自己学習してください。

一方、理解が進んでいる人にはレベルに応じた課題を与えるなど飽きが来ないように配慮していきます。

6. その他履修上の注意事項

原価計算と密接に関連している工業簿記もセットで授業を進めます。工業簿記は授業対象ですが、その前段階の日商簿記検定3級程度の商業簿記の知識はあるという前提で授業をします。

講義の中で実際に計算演習を行いますので、必ず電卓を持参してください。

7. 授業内容

- 【第1回】 春期授業の復習(春期試験の解説)と秋期授業のガイダンス
- 【第2回】 総合原価計算の意義と特徴、計算手続き
- 【第3回】 総合原価計算の計算手続(月初仕掛品がないとき)
- 【第4回】 総合原価計算の計算手続(月初仕掛品があるとき)
- 【第5回】 減損費・仕損費の処理
- 【第6回】 工程別総合原価計算
- 【第7回】 組別総合原価計算、等級別総合原価計算
- 【第8回】 標準原価計算の意義と目的
- 【第9回】 標準原価の計算と勘定記入
- 【第10回】 原価差額の分析と会計処理
- 【第11回】 財務諸表
- 【第12回】 直接原価計算
- 【第13回】 損益分岐点分析
- 【第14回】 意思決定のための原価計算、設備投資の経済性計算
- 【第15回】 まとめとテスト